

紙上公共施設見学会

「野田市ファミリー・サポート・センター」

平成13年10月に開設した「野田市ファミリー・サポート・センター」は、子育て中のすべての家庭を支援するもので、現在総合福祉会館2階社会福祉協議会内に設置しています。

センターには、援助を受けたい利用会員と援助したい提供会員とが、それぞれ登録し、必要に応じてセンターに連絡し、主に提供会員の自宅で保育を行います。

利用会員は、生後6か月から10歳までの子どもの保護者で、仕事や病气、冠婚葬祭などで、保育所などへの送迎や一時的な保

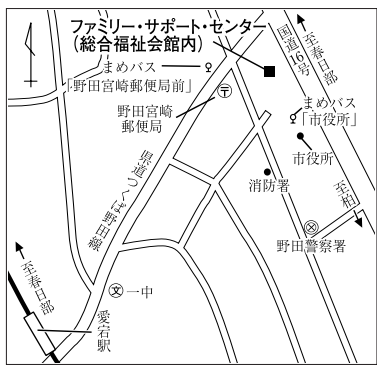


お迎えまで提供会員の自宅で保育を

育が必要なきなどに、年間約2千500件も利用されています。

また提供会員は、子育て中の方や定年を迎えたご夫婦など、207人です。

なお、いずれも人会説明会後、事前登録が必要ですが、説明会の日程は市報(今号13面参照)な



どでお知らせしています。

ほかに、センターを多くの方に知っていただくようと、1歳未満の赤ちゃんによる「はいはいコンテスト」や、親子の英会話体験「ママといっしょにABC」なども開催しています。

市民訪問



みんなが幸せに生きていける社会に

金剛寺 守さん

差別や虐待などの人権問題で困っている方がいれば、昼夜を問わず相談を受け、解決のため尽力されてきた金剛寺守さん。

永年にわたる人権擁護委員としての活動が評価され、今年10月1日に、法務大臣表彰を受けられました。

幼いころから民生委員として、地域の困った人の相談にのる父親の後ろ姿を見て育ったという金剛寺さんは、自分も地域のために、47歳のとき法務大臣から委嘱を受けました。以来、本業で

ある獣医師の仕事の合間をぬって、活動してこられたそうです。

「最近では近所付き合いの相談事が増えています。家族や友人を大切にするように、他の人にも温かい心で接すればもっと明るく楽しい社会が築けます」と金剛寺さん。

「定年を機に、趣味で写真を始め、虫や花などの『命』に慈しみの念でシヤッターを切っています。相手の人権を尊重するということは、この『慈しむ心』だと思います」と結びました。

西三ヶ尾在住・昭和21年生まれ

※人権相談のことは10面参照

トピックス

まちを楽しくする

市民の提案を形に



昔の写真も交えた説明に熱心な質問も

歴史的な建造物を活かしたまちづくりを提唱する市民団体と郷土博物館が共催した企画展「まちなみ提案」が、来年1月11日まで同館で、開催されている。

特に11月14日にはガイドボランティアによるまちなか歩きや、所有者の協力で、普段は非公開の建物の一部も見学させていただくなど、多くの参加者が、新たな野田を再発見していた。

家庭でもできる

豆腐づくりに挑戦



こしてできた「おから」も楽しみと参加者

地元の大豆で豆腐づくりを体験してもらおうと、11月5日、野田市農産物消費拡大推進協議会では、「豆腐づくり講習会」を東葛飾地域農業センターで開催した。

唯一の男性参加者だった愛敬彬さん(木野崎)は、大豆やがりの分量など、メモを取りつつ挑戦。約2時間後にできあがると「うまく固まりました」と満足そうな笑顔で話していた。